われわれはどう闘つてきたか

さらに態

めて労働協約を結ぶにいたつた。二十一年当時は非常に食糧事情が悪く、坑内労働者で昼食をぬきにするものやビールビンにオカユをつめて出勤するのも少くなかつた西鉱連としてはその対策を検討、飢餓突破資金を要求した。

こうして炭鉱労働者の横のつながりは企業別だけでなく炭連結成、炭労結成など産業別にも発展していつた。

増産につぐ増産時代

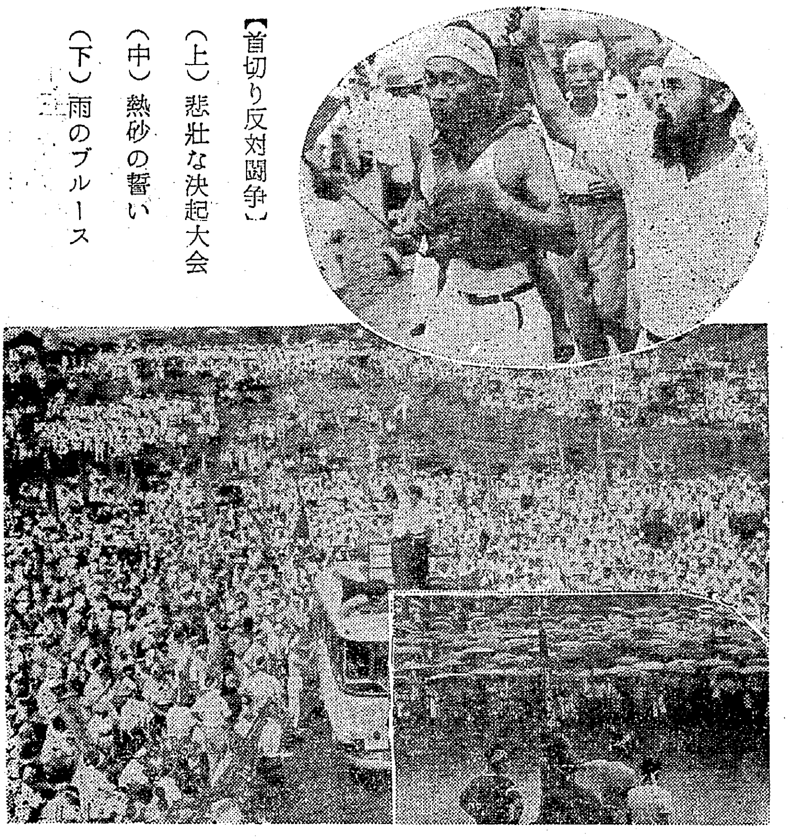
炭鉱労働者は基礎産業労働者としての立場から、要求するかわりに働く方も頑張るという態度で〃出

続きを認め、退職給与などをふくむ協定書を結んだ。これによつて結局、三鉱連全山で四五五名が減

合では「保守党が肥えれば労働者が痩せる。資本家の代表に投票するものは賃金が安いという資格は

が全国的な実力行使の実情は低調で、労闘の一年あまりの闘いの甲斐もなく破防法は成立した。しか

内訳 年度	坑
S 21	
22	
23	
24	38,
25	34,
26	27,
27	28,
28	28,
29	26,
30	25,
31	25,
32	25,
33	26,



【首切り反対闘争】
（上）悲壮な決起大会
（中）熱砂の誓い
（下）雨のブルース

運命をかけた一一三日の闘い
発揮された団結の底力

二十八年七月三池炭婦協結成、八月七日スト規制法成立公布という弾圧的情勢のなかで、三井鉱山はスト規制法公布当日の八月七日五・七三八名の首切りを、組合に申入れる以前に対外発表を強行した。これにたいして組合は、事前の長期間にわたる準備態勢を活用し七日早朝から各鉱所正門に座りこみを敢行し、つづいてピストンデモ大牟田駅前座りこみ、銀輪デモ、熱砂の誓い、職場抗議、雨のブルース、鉱長宅座りこみなどを強行した。その間匿名一組合員の死の上申状をみ、九月中旬の拒否者代表団の抗議上京、炭婦協独自の決起大会などがあり、関連労組の協力の下に順法闘争、通告拒否闘争、港務支部の一齊無期限ストなどを組み、三井をのぞく他の企業が全部妥結をみたなかで、三鉱連独走態勢のまま、頑強比類ない一一三日の企闘をおしすすめたが、金山二十四時間ストはわずか二日のみとし、五〇%以上の減産闘争に成功したことは画期的であつた。そしてこれは、六十三ストのいわゆる〃賃闘自己批判〃の具体的な実践であると評価されるところであり、機械的な一齊全面ストでなく、大衆の力量と創意を生かした順法闘争、部分ストを闘つていくなかで、一時間一齊休憩の実施とともに、請負給制度にたいする階級的な認識がふかまつていつた。また炭婦協も結成直後の闘いであつたにもかかわらず、その力量を発揮し、家族をふくめた大衆闘争が盛り上つていつた。

ところでこの企闘には、いわゆる山の上事件といわれる官憲の不当な弾圧介入がおりこまれ、また会社のオドカシ戦法、民労連の切り崩しビラ配布などの妨害があつたことも周知の通りである。

組合はこれらの分裂工作や不当介入を排除して企闘を強化するため執行部改選を延期し、延期選挙に介入された職制の干渉を徹底的に追及した。こうしたなかで勝立売店事件がおこり、またまた官憲は権力という暴力をふるつたのである。なおこの選挙では、闘わぬ幹部不信任の声がたかまり、炭婦協をふくめたデモのなかで、ついに更迭をみた一幕もあつた。

このようにして会社の切り崩し工作はことごとく失敗し、長期化の不利をさとつた会社側は指名解雇を退職募集にすりかえようとしたが、組合員は最後まで闘うことを誓いあつた。

この間炭労の闘争指標は賃闘におきかえられ、統一企闘は打ち切られたが、三鉱連全六山の独走態勢はあくまで固く、十一月二十七日ついに企反闘争は、一一三日闘争の歴史をのこして終結したのである。

さらに企闘により団交決裂のまま中断されていた炭婦協に端を発した福利厚生問題も、十一月三十日解決するにいたつた。

組織づくりに集中

資本家側は、二十八年秋に金融引締め政策を強行し、いわゆる一兆円予算によつて、デフレ政策を強行、賃金ストツプ論で労働者に対決をいどんできたが、やがてMSA援助による生産性向上運動がおこるにいたつた。

一方労働組合は日常闘争を昂揚させるなど、〃組織づくり〃に力をそそいでいつた。さらに生活対策を推進し、二十八年十一月、二億三千万円にのぼる特別融資をおこない、いわゆる借金退治を実施して、〃組織づくり〃の一環とした

実力背景に長期計画

やがて三十年七月、中小炭鉱の買つぶしと大手炭鉱の人員無補充により約八万余名の人員減少をねらい、能率を四〇%引きあげるという石炭鉱業合理化臨時措置法が成立したが、この法案が上程されて間もなく三井鉱山は長期計画にともなう人員問題について団交を申入れてきた。

この長期計画と対決する組合の考え方は企闘の体験から直接うまれたいわゆる〃経営方針変革闘争〃であつた。

三池としても「一一三日」の企闘にのぞんだ以上の力が、組合員ひとりひとりの力として底深くかためあげられた。すなわち生活改善の日常化としてとりあげられた生活革命運動、特別生活対策の実施各支部共済会の統合など経済的戦力を一歩一歩かため、組合員の階級的文化や理論による武装をも着々と成長させ、やがて自走こう配戦術を編みだし、組合員の力の盛り上りのうちに長期計画闘争は本格的段階に突入した。

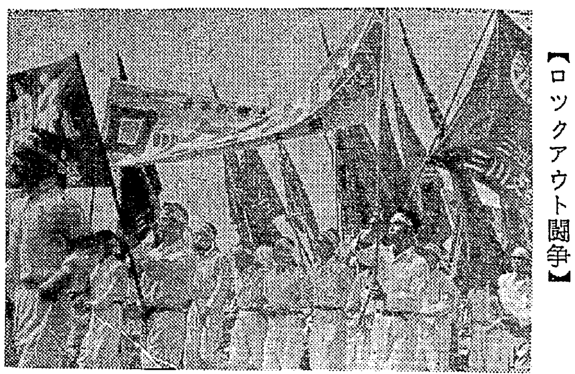
十月、各山ごとに長期計画交渉にあたつて会社側に要求する具体的事項を三鉱連に報告、三鉱連はこれを集約して大綱をつくり長期に対決して、経営方針変革を積極的に推進するためたち上つた。

経営方針にたいする労資の対立はするどく、三鉱連は実力行使の準備指令をだし、実力を背景とした強力な交渉で、会社の人員無補充方針が撤回されるや、本格闘争突入の指令をだして、山元からの圧力を期待した。

三池ではスト権集約をおこない、闘う態勢をつくりあげ、三鉱連史上最も激烈だつたといわれる追及と、これを支える下部組合員のたくましい不断の職場闘争、山元団交の圧力に屈した会社側の敗退による中央交渉の妥結にもとづいて一四三日の長期にわたる闘争に終止符がうたれ、保安優先、完全雇用、入替採用の確立などの成果をあげた。そして次に、一一三日の企闘以降における〃組織づくり〃の効果としての組合の力の昂揚であつたこの長期闘争のなかで、行動方針にもみとめられた労商提携がすすみ三十年九月に大牟田、荒尾両地区の革新商店連盟が結成された。

あつち向け闘争

長計闘争のあと、ひきつづいて期末手当闘争、賃金闘争を闘つたがその賃金闘争に三池の職場闘争が強く深くくいこんでいつた。すなわち、幹部闘争から大衆闘争へ、執行部の請負交渉から、組合員一人ひとりが参加する闘争へと脱皮して、職制支配を排除し生産の主導権を労働者がにぎる組織づくりの一環でもある、いわゆる〃到達闘争〃がおこなわれた。



【ロックアウト闘争】

(1)他山との格差は組合長名で所長へ
(2)他支部との格差は支部長名で鉱長へ
(3)他職場との格差は職場分会長名で係長へ

という三段階方式による労働条件保安、福利関係の要求で闘つた。

三十一年二月四日の中央委員会では「職場到達闘争方針」を確認し無記名投票の結果、九二%の賛成を得てストライキ権が確立された。そして三権がそれぞれの機関に委譲された。こうしてそれぞれの交渉がもたれが、会社側との対立はするどく、ついに部分ストに突入した。これを法違反の山猫争議だと態度を硬化した会社側は賃金カットを通告、さらに疾風迅雷の如く万全の陣立てで三月十四日ついに、ロック・アウトを宣言した。

このロック・アウトの背景には、自衛隊の動員、福岡・熊本県警の待機という国家権力の保護、右翼団体の介入がひそめられていた。

三池のうごきを重視した三鉱連は炭労賃闘との関連を考え、炭労にたいし全山闘争の第一波三月十九日の無期限原炭搬出拒否を十七日に繰上げ突入できるよう申請した。

やがて賃闘は終り、三池のロック・アウトとの対決が世の注視をあびて続行され、関連産業組合員のカンパ、激励、革商連の協力、学者グループの啓蒙活動をうけながら、北海道三山の第一段階スト、九州三山の第二段階ストが予定された。

このもりあがりのなかで中央では連日の徹宵交渉の結果、急転妥結をみるにいたつた。こうして三十二日のロック・アウトをふくむ四十三日の長期ストは数かずの課題をこんごにのこして終結した。

足並み揃える六山
三鉱連臨時大会で方針決定

一面「前進」欄で述べているように非常事態に直面した三鉱連では、十月二十四日より六山の代表者会談をひらき、緊急に山元態勢を完備して、六山が足なみをそろえ全力を傾けて会社の攻撃にあたることとなつた。このため十一月十七日を目途に三鉱連臨時大会をひらき具体的な方針をきめ中闘を中心に一丸となつて闘いに立上ることとなつた。

いうまでもなく、こんどの闘いは組合がこんご弱体化するか、より以上に闘いを通じて強大になつて行くかの岐路に立たされており、組合員もハラをすえて闘いをいどむことが切実に要求されている。三池ではすでにこの闘いを前にして、いま各支部とも執行部を中心に組織の再点検、態勢の盤石化を急いでいる。

【写真は警職法改悪反対街頭署名】

こうした緊急事態にさいして、山元の各支部では急ピッチに緊急態勢確立をいそいでいる。各支部では教宣部を中心に執行部が一丸となつて職場、地域で教宣の徹底をはかり、闘争態勢に万全を期しているほか、行動隊の再編成、職場地域での組織防衛委員会の結成と組織の再点検にあたつている。

宮浦支部では朝、昼、夜の三回にわたつて集団社宅の教宣活動に本腰をいれているが、社宅では二カ班を一組として懇談会をひらき、緊急態勢、警職法について膝をまじえて話合い徹底的な教宣をくりひろげている。全執行委員が手わけしてこれにあたつているが、十一月三日ごろに全社宅が終了するみこみである。外来分会については日曜日を利用、これも十一月二日には完了する。職場分会は同じく二カ班を一組として組合二階で連日学習と教宣をかねた大会をひらき討議しあつている。

行動隊編成はさる二十六日に完了約三百名の隊員が編成された。

四山支部の教宣状況は、集団社宅では班別にじつくり話合い、各執行委員が出席して教宣にあたつているが、大体二日で一分会を終了している。二十八日現在であと一分会が残つているだけである。ここが終了後外来分会に力を注ぐことになつている。職場は繰込時間を利用して入坑前に教宣を実施、坑外関係は休憩時間を利用している。また、このほかに職場大会などでさらに徹底を期している。行動隊は九日に結成式をあげるが約三六〇名が編成される。

職場も地域も立上る

三川支部では職場、地域とも教宣を二十日から開始、全執行委員が当つているが社宅では二班を一組にわけ、昼夜二回にわたつて一日約十七カ所を消化している。十月一杯で第一回目を完了する。これと併行して職場では常会をひらき教宣の徹底をはかつているが、ほかに毎月曜日活動家が中心になつて討論集会をひらいている。十一月末から十二月初めにかけて第二回の教宣を実施する予定。行動隊の新編成は十一月二日に行う。

本所支部では全委員が外来を担当して懇談会をひらいておりさらに十一月に入り執行部を中心に教宣計画を立てている。社宅は十月一杯で終了した。なお職場では職場委員が職場大会で説明し、ついで職場常会をひらき徹底させている。十一月三日ごろ終了する。行動隊編成は下部から編成にあたつており一人でも多く参加するよう慎重さをみせている。

三作支部は昼休みを利用して職場分会を終了、社宅には執行部の他に主婦会も座談会を担当、分会単位に教宣を徹底させている。行動隊は三十日に完了、七カ所班編成して態勢を完備している。

港務支部では昼夜に分かれて班別、外来は一カ所に分会を集まつて実施しているが、十日ごろ第一回完了の予定である。職場は決起大会を利用して徹底をはかつているが、平常は交替時、休憩時に実施している。また、天野先生を招き各職場ごとに学習会をひらきさらに徹底させている。行動隊は編成を終り三支隊にわけ活動を開始した。

闘争組織に切替え

なお、一方では職場と地域ではあらたにこの緊迫した事態に対処するため、組織防衛職場（地域）委員会を結成、従来の分会を闘争態勢へと切替え、闘いに立上つた。主婦会でも組織確立に立上り、十一月六日から二十六日まで「仲よし運動」にとりくみ、各分会単位に懇談会をもつことになつている。主婦会の発展のためばかりでなく闘いをかちぬくためには、個人同志のエゴがとかく組織内でジックリいかないし、闘うえにガンになつているからこれを取除いてみんな一緒に手をとりあつて闘いにすすむことになつている。

また一方、こんどの会社の出方には警職法改悪という政治的な攻撃と関連していることも、みのがすことのできない問題である。各支部では緊急態勢確立とともに警職法改悪反対にも立上り、法案の説明会、座談会も活発におこなつている。